

## ものづくり一気通観エンジニアの養成

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：豊田工業高等専門学校（総括責任者：高井 吉明）

## プロジェクトの概要

本養成ユニットでは、地域製造業において中核技術者を目指している意欲的な技術者及び高専学生を対象に、先進ものづくり企業、大学及び愛知県産業技術研究所の協力を得て豊田高専を拠点に「産学官」の三者が一体となって人材創出拠点を形成し、中小企業のリーダー技術者、次世代の創造力豊かなものづくり実践技術者の育成を目指している。

企業技術者と高専学生がプロジェクトチームを編成し、工学基礎、専門、実験とともに、伝承技術、異分野及び先端技術、工学と実学の融合と創意工夫による効率的な生産システム開発課題に取り組む。高専・大学、地域企業、技術研究所など産学官が協力した共同教育（CO-OP）により技術者・学生が共に学び、ものづくりを多面的に捉えて開発できる技術者を養成する。

## (1) 評価結果

総合評価	進捗状況	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性 の見通し
A	a	s	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## (2) 評価コメント

豊田地域の産業界が求める技術者ニーズと合致する取組であり、ものづくりの構想・企画から最終工程まで一連の工程を見通す能力を養成するため、企業技術者と学生で混成したチームを編成し、実践的なプログラムを実施してきたことは優れたものと評価できる。地元経済状況が必ずしも良くない中で、受講生を所期の目標を超えて受け入れており、修了者数は所期の目標を越えて達成見込みである。今後のものづくり産業の発展による産業活性化に、本人材養成プログラムが大いに貢献して行くことを期待する。ただ、昨今、地元中小企業が外国に進出している状況であり、今後、グローバルに活躍できる人材の養成にも力を入れることが望まれるので、英語力やコミュニケーション能力の面のカリキュラムの充実を検討していくことを期待する。

- ・ **進捗状況**：受講生は企業技術者と専攻科学生とも当初の数値目標を越える人数を受け入れつつ、修了者数目標も達成する見込みであり、順調に進捗しているものと評価できる。
- ・ **人材養成手法の妥当性**：豊田地域の産業界が求める技術者ニーズを反映した工学・実学一体の実践的なカリキュラム構成であるとともに企業技術者と学生の混成チーム編成による養成方法による効果も現れているなど、人材養成手法は高く評価できる。
- ・ **実施体制・自治体等との連携**：高専の支援は積極的に行われつつ、一方、豊田市の地域再生計画「階層的製造業人材育成の推進」に本人材養成が位置付けられるなど、豊田市や愛知県

などの自治体及び産業界との連携も適切に行われていると評価できる。

- ・ **人材養成ユニットの有効性**：養成修了者はまだ輩出されていないものの、企業技術者受講生の職場での活躍や本人材養成ユニットへの期待が産業界から多く寄せられるなど、地元産業界から評価されている。修了者輩出後は、修了者へのフォロー体制の構築と、企業技術者と学生の協力ができる修了者ネットワークの実現が期待される。
- ・ **継続性・発展性**の見通し：「とよたイノベーションセンター」の開設検討など、自治体・産業界とは事業継続について積極的に協議されており、継続性の確保が期待できる。